

平成三十一年度鹿屋体育大学入学式告辞

本日ここに、鹿屋体育大学体育学部一九九名、体育学研究所二七名、合計二二六名の新入生を迎え、平成三十一年度の入学式を挙行できますことは、国立大学法人鹿屋体育大学の教職員ならびに在学生にとりまして、大きな喜びとするところであります。また、今日までご子弟を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかつた保護者の皆様をはじめ、関係の皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

さて、我が国では「スポーツを通じて幸福で、豊かな生活を営むことは全ての国民の権利である」ことを法律として謳っております。

我が国のスポーツは学校を中心として発展してきました。そして、本年三月には、大学スポーツを振興し、卓越性を有する人材を育成するため、大学横断的かつ競技横断的統括組織の「大学スポーツ協会」ユニバスが発足しました。

スポーツの健全な発展と推進のためには、科学的に裏付けられた理論と方法に従った指導が必要不可欠になります。鹿屋体育大学はスポーツに関する科学をさらに発展させる使命を持った大学であり、その研究成果を基に教育し、社会に貢献することを目的とした大学であります。

鹿屋体育大学体育学部の教育目標は、「スポーツ・健康・武道分野における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有し、広く国際社会で活躍できる有為な人材の養成」です。

また、体育学研究科の教育目標は、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ・身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トップアスリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材の養成」です。鹿屋体育大学が養成するスポーツ・健康・武道分野に関する専門職として、大きくは四つあります。一つ目は、指導者です。学校の体育教師や、スポーツクラブのインストラクター、トップアスリートを指導するスポーツコーチなどです。二つ目は、スポーツを科学する研究者です。具体的には、自然科学的手法を用いた領域、人文社会科学的手法を用いた領域、コーチングやトレーニングなどのスポーツ実践研究領域を専門とする研究者です。三つ目は、国や地方のスポーツ行政の専門家です。そして、四つ目は、プロスポーツ選手やオリンピック選手などトップアスリートであります。

来年には夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。また、ここ鹿児島でも国民体育大会が開催されます。多くの国民が、県民が代表選手の活躍を期待しておられると思います。しかし、スポーツ競技大会の成功は選手の活躍だけでなく、周囲の人々の支えによる部分も大きいと思います。

鹿屋体育大学に入学された皆さんは、「スポーツを「する人」を目指すにせよ、「支える人」を目指すにせよ、これからの学生生活を教職員と一緒にやって、体育学、スポーツ科学を学習し、研究していただき、これからの体育・スポーツの発展、社会に必要なリーダーとしての能力を備えていただきたいと思います。

皆さんが今もっている夢をかなえるためには、まずもって夢を具体的な目標に書き換え、目標達成のために計画を立て、実行することが求められます。そして、教育課程に開設された授業科目の中から、自分が目指す有為な人材に必要な科目を選択し、各自の時間割を作成し、学んでいくこととなります。

大学における学びは、ただ知識を習得するだけでなく、自分の考え方を作るところです。これからの社会においては、知識を手に入れるだけでなく、自分の考えを持つこと、人の意見をしっかりと聞くこと、そして、自分の考えを伝えることが必要になります。教師や友人との対話を大事にしてください。

本学は鹿児島県鹿屋市にありますが、全国各地からの仲間、海外からの留学生が集まっています。ぜひ、全国やグローバルに広がる友人を作ってくださいと思います。そして、ここ大隅の皆様方は学生諸君を温かく迎え、本学の教育研究をご支援してください。ぜひ、この大隅の地を第二の故郷と思い、がんばってください。

最後になりましたが、本日ここに、ご来賓の皆様ならびに保護者の皆様方に前列席を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、新生生の皆さんへの期待と激励を述べて、告辞いたします。

平成三十一年四月五日

国立大学法人鹿屋体育大学長

松下雅雄